

2019年度 学校評価表

九州国際大学付属高等学校

一、学校運営基本方針

校訓	清く 明るく 逞しく
教育目標	平和で民主的な社会の形成者としての必要な資質を備えた、知・徳・体のバランスのとれた生徒を育成する
目指す学校像	一、生徒の夢と目標を実現できる進学校 一、他を思いやる豊かな心を育む学校 一、文武両道を実践する学校 一、時代をリードする国際性を育てる学校
目指す生徒像	一、高い知性と確かな学力を持つ生徒 一、社会の一員としての礼儀、マナーを身につけた生徒 一、心身ともに健やかで逞しい生徒 一、深く考え、自ら行動する聡明な生徒
日々の実践	一、さわやかな笑顔で挨拶を交わそう 一、礼節ある言葉づかいを心がけよう 一、服装を整え、生活マナーを大切にしよう
教育の特色	知・徳・体のバランスのとれた人間の育成を実現するために、「生活指導」「進路指導」「総合的な学習」の各次元からなる全人教育を行い、生徒一人ひとりの個性と能力を開発することで、生徒の夢を実現する。また、「生徒にとって最大の教育環境は教師自身である」をモットーに教員改革を一切の基本としていく。

令和2年度 年間教育活動目標

生徒の夢を実現させる ICT教育活動の研究と実践

二、各部の年間基本方針と自己評価

総合評価:A

※評価基準: A:よくあてはまる/B:ややあてはまる / C:どちらともいえない
D:あまりあてはまらない / E:全くあてはまらない

■教務部

評価:A

目標	①ICT教育の推進に向けて ⇒タブレットを用いた授業管理 ②年間指導計画の作成および共有 ③授業参観および授業参加の活性化 ④2021年入試に向けて⇒研究授業に実施 ⑤業務の簡略化 ⇒ 便利ツール、スクールエイドの効率化 ⑥定期考査ごとのクラス別分布表の作成 ⑦生徒の情報共有⇒年6回の生徒支援委員会の開催					
基本方針	具体的施策・目標	自己評価				
1. 授業時数の確保	授業の開始・終了時間の厳守(チャイムと同時に開始、終了する)	Ⓐ	B	C	D	E
	出張・年休・遅刻・早退の処理(時間割変更、振替、取得の推進)	Ⓐ	B	C	D	E
2. 授業の充実	他の教員の授業見学	A	Ⓑ	C	D	E
	研究授業の実施	A	Ⓑ	C	D	E
	教室内の整理・整頓	Ⓐ	B	C	D	E
	授業管理	Ⓐ	B	C	D	E
	授業アンケートの活用	A	Ⓑ	C	D	E
	学外研修への参加	A	Ⓑ	C	D	E
	学内研修の実施	Ⓐ	B	C	D	E
3. シラバスの作成	各学年、クラス別の作成(難関・S/特進・準特進/進学)	A	Ⓑ	C	D	E
4. 試験問題の管理	問題の作成・提出(期限の厳守、管理)	Ⓐ	B	C	D	E
	試験時間の確立(5分前の着席、開始前の問題配布完了)	Ⓐ	B	C	D	E
5. 生徒の出欠管理	出席簿・教務手帳への正確な記入	Ⓐ	B	C	D	E
	生徒の欠席・遅刻等の減少化	A	Ⓑ	C	D	E
次年度への課題	○ 平成30年度入学者から新テストの実施となるために、各教科においては研究授業を実施し、教科内での指導方法の確立 ○ 教育活動におけるICT機器の活用と研究 ○ 今後は教員間の更なる情報共有を図り、クラス間の格差を0に近づける。 ○ 校務システム・ICT化にともない組織化・効率化を図っていく。					

■生徒指導部

評価:A

指導部方針	①挨拶②頭髪服装③掃除(美化)④時間厳守							
基本方針	具体的施策・目標			自己評価				
1. 挨拶の励行	登下校時、来客、校外、自宅での挨拶の励行・習慣化			A	ⓑ	C	D	E
2. 問題行動への適切な対応	確実な報告・連絡・相談			A	ⓑ	C	D	E
	素早い対応			Ⓐ	B	C	D	E
	教科担当と担任の連携			Ⓐ	B	C	D	E
	家庭との連携・連絡			Ⓐ	B	C	D	E
	日頃のHRでの生徒指導			A	ⓑ	C	D	E
	学年集会等での生徒指導			A	ⓑ	C	D	E
	処分者・違反者の減少化			A	ⓑ	C	D	E
3. 自転車通学の安全指導	いじめアンケートの実施・対応			Ⓐ	B	C	D	E
	安全教育指導の実施			A	ⓑ	C	D	E
	事故件数の減少化			A	ⓑ	C	D	E
4. 登下校指導での安全確保	許可申請・管理・保健加入の推進			Ⓐ	B	C	D	E
	週番割り当ての実施状況			A	ⓑ	C	D	E
	笑顔での指導(明るく、厳しく、優しさのある声かけ)			A	ⓑ	C	D	E
	教員から生徒に積極的に挨拶を行う			A	ⓑ	C	D	E
	通学路の厳守・徹底			A	ⓑ	C	D	E
5. 安全なスクールバスの運営	通学路周辺の清掃の実施			Ⓐ	B	C	D	E
	枝光駅とスペースワールド駅の選別の徹底			Ⓐ	B	C	D	E
	駅前での指導・安全な乗り降りの励行			Ⓐ	B	C	D	E
6. いじめアンケートの活用	学年別利用制限の励行			Ⓐ	B	C	D	E
	いじめアンケートの実施・把握・活用			Ⓐ	B	C	D	E
次年度への課題	いじめ事象の減少化			Ⓐ	B	C	D	E
	来年度も様々な場所での挨拶の徹底を継続していく。							

■進路指導部

評価:A

基本方針・目標	①生徒の進路目標の実現 ②国公立大学合格実績の質および数の向上 ③教員の進路指導技術の向上 ④コース主任制度の活用					
基本方針	具体的施策・目標			自己評価		
1. 生徒への進路情報の提供	進路ガイダンスの内容の充実	Ⓐ	B	C	D	E
	校内進路行事(大学進学説明会・出前授業等)の充実	Ⓐ	B	C	D	E
	外部の進路ガイダンスへの呼びかけ・参加	Ⓐ	B	C	D	E
	LHRでの進路研究の推進	A	Ⓑ	C	D	E
	進路指導室の活用の推進	Ⓐ	B	C	D	E
	進路指導室の担当教員の徹底	Ⓐ	B	C	D	E
2. 教員の指導力の向上	コース主任制度の活用(コース内の格差の縮小)	A	Ⓑ	C	D	E
	教員の大学入試研究の推進	A	Ⓑ	C	D	E
	外部研修(予備校主催等)への積極的参加	Ⓐ	B	C	D	E
3. 夢橋の活用	HRでの自己マネージメントの管理・指導	A	Ⓑ	C	D	E
次年度への課題	今までの進路行事に加え、さらにキャリアガイダンスを充実させる。 高校3年間の進路指導計画(キャリアプラン)を明確にする。 コース主任制の活用がまだ不十分である。もっと活用して、進路指導を充実させたい。					